

ご使用前にラベルをよく読み正しくお使い下さい。
また、必要などきに読めるようにこのラベルをはがさないで下さい。

環境管理用薬剤

スパールオロス

第2類医薬品

18 kg

注意一人体に使用しないこと。

【使用上の注意】

してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

- 薬剤を口や目に入れないこと。●小分け配布をしないこと。
- 希釈するときは、薬液がはね返らないようにして均一に攪拌し、手や指で直接かき混ぜるようなことはしないこと。希釈する容器は専用のものとし、他と兼用しないこと。

相談すること

- 万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合は、吐かせず直ちに医師の診療を受けること。薬剤の使用により頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気、気分が悪くなった場合などには、直ちに使用を中止し、清浄な空気のある場所で安静にして、医師の診療を受けること。●医師の診療を受ける際には、本剤が有機リン系及びオルソ剤の殺虫剤であること、および使用薬剤の名称、成分名、症状、被曝状況についてできるだけ詳細に医師へ報告すること。

【効能・効果】

ハエ成虫、ハエ幼虫(ウジ)、蚊成虫、蚊幼虫(ポウフラ)の防除

【用法・用量】

目的に応じて水で希釈し、主として戸外に、または衣類、寝具類などを避け、害虫の生息又は発生し易い場所に噴霧する。但し、室内に噴霧する場合は10倍液として1m²あたり3mLを限度とする。

適用害虫	希釈倍数	1m ² あたりの使用量
ハエ成虫・蚊成虫	10～20倍	50mL
ハエ幼虫(ウジ)	100～200倍	2L
蚊幼虫(ポウフラ)	水量1トンにつき	本剤20mL

〈用法・用量に関連する注意〉

(1) 使用に際しての注意

1. 定められた効能又は効果に従い、用法及び用量を厳守して使用すること。
2. 薬剤によってアレルギー症状やかぶれなどを起こしやすい特異体質の人は、薬剤の処理作業には従事しないこと。
3. 病人、特異体質者、妊婦、乳幼児などは、薬剤の影響のない場所に移動させること。
4. 環境を汚染しないように乱用を避けること。また養殖池、井戸、地下水などを汚染する恐れのある場所、蜜蜂、蚕(桑)、水棲生物などに被害を及ぼす恐れのある場所では使用しないこと。
5. 食品、食器、飼料、おもちゃ、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品などはあらかじめ他へ移すか、あるいは格納し、薬剤がかからないようにすること。
6. 保護具(長袖の作業衣、作業帽、保護メガネ、保護マスク、保護靴、ゴム手袋など)及び使用する機械器具は、あらかじめよく点検整備しておくこと。
7. 使用に際しては、必要量だけを分取し、その都度使い切ること。
8. 本剤と他の薬剤とを混合したり、加熱したりしないこと。アルカリ性の下では分解しやすいため、石けん液等の混入を防ぐこと。
9. 塗装面やプラスチック、石材、漆喰、白木などに薬剤が付着した場合は変色・変形する恐れがあるため、覆いなどの処置をして薬剤がかからないようにすること。

10. 本剤は引火性があるので、火気のある場所では使用しないこと。また、電気火花が発生しそうなところでは電源を切ってから使用すること。

11. 小分けするときは、食品用の容器や誤用の恐れのある容器に入れないこと。

(2) 使用中又は使用後の注意

1. 使用に際しては、保護具は必ず着用し、身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないようにするとともに、できるだけ吸い込まないように注意すること。
2. 屋内などの通気の悪い場所での作業では、十分換気するよう配慮し、処理後は必ず換気すること。
3. 薬剤の調製、散布中は喫煙、飲食をしないこと。使用中又は使用後にトイレに行くときは、手や顔をよく洗ってから行くこと。
4. 使用後は必ず手や指などを石けん水でよく洗うこと。また、使用中薬剤が皮膚に付いたときは、直ちに石けん水でよく洗うこと。万一、薬剤が口、目などに入ったときは、直ちに水でよく洗い流すこと。作業中に大量の薬剤を浴びた場合には、直ちに汚染した衣類を脱ぎ、シャワーを浴びるなどして体に付着した薬剤を洗い落とし、清潔な衣類に着替えること。また、必要に応じて、医師の診療を受けること。
5. 作業時の衣類は、他の衣類と区別して洗濯し、保護具も洗剤でよく洗うこと。希釈や薬剤処理に用いた機械器具類もよく洗うこと。
6. 使用済みの空容器などは、石けん水でよく洗い、小児が手に触れないようにするとともに、他に転用しないこと。汚染した器物や洗浄液は作業現場から持ち帰り、河川、湖沼、下水道などの水系や地下水を汚染する恐れのある場所には捨てないこと。

【成分・分量】

オルトジクロロベンゼン…50% ジクロロボス…1.5%
その他2成分

【保管及び取り扱い上の注意】

1. 使用後に残った薬剤は、ラベル表示のある元の容器に密封し、他のものと区別して保管すること。
2. 保管場所は、食品、食器、飼料などと区別し、小児の手の届かない所で、直射日光が当たらない乾燥した涼しい場所にすること。
3. 漏洩した場合には、次のように処置すること。
 - ① 吸収性の媒体、例えば砂、軽石、ホコ布、オガクズなどに吸着させ、広がりを阻止して回収すること。
 - ② 火災の危険が生じた場合には、すべての火元を止め、火災の誘発を防止する処置を講ずること。
 - ③ 漏洩した薬剤が井戸、池、河川などの水系に流入した場合には、直ちに警察又は保健所に届け出ること。
4. 火災事故の場合には次のように処置すること。
 - ① 火災の拡大を軽減する最大の措置を講ずること。
 - ② 薬剤が燃焼すると有害なガスが発生する恐れがあるので、人を避難させること。

第4類・第2石油類・危険等級Ⅲ・火気厳禁

サンケミファ株式会社 お客様相談窓口
電話 (022) 394-3031
受付時間：9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

製造販売元

 **サンケミファ株式会社**
仙台市青葉区芋沢字大竹新田 8-1


ラベル:PP